マンスリートピックス

1. 美しく景観に調和した構造物を
2. 通勤時間内のムダをより少なく
3. “金の卵”は順調に育つのだろうか

1. 世界環境デーにちなんでわが国でも初の環境週間が実施された。交通安全週間などと同じように，掛声のわりには，という結果であったかもしれないが，この種の運動はお上からの押しつけ，あるいは線香花火的なものであっては効果がない。環境問題については，最近この欄でもふれられることが多い。自然をいじることを業とする土木技術者にとって，これはもっとも，真剣に受けとめなければならない問題である。美しい，景観に調和した構造物をつくることも，土木技術をとおしてよい環境を生み出すことのひとつであって，昨年来学会誌上でも中村良夫，山本宏，関　淳，内藤隆の各氏が具体的な提案なり実例を示している。中堅の技術者，研究者の間にこの問題に対する関心の高まりが見られるのは心強いことであるが責任ある立場の人々にこれを具体化する意欲と勇気がなくては実現は望めない。たとえ当初は多少経費がかかっても，それを補ってあまりある効果が長年月にわたって還元されることを当時者が理解するとともに，景観学者，エコロジスト，アーキテクト，など他分野の専門家の意見も積極的に計画に取り入れることが必要である。［J］

2. 最近，毎週月曜日の朝の通勤時間帯に，京浜急行の横浜市上大岡から乗車して，横浜駅→品川駅→池袋駅と国電を乗り換え，8時前に池袋から西武線で入間までかよっているが，これらの利用駅5駅のうち品川を除く4駅で駅の改良工事を行なっているのは壮観である。

工事の目的と内容についてはいっさい不明だが，多分利用者にとって便利になる施設に改良しつつ，利用者の要求に沿った交通機関の通勤輸送混雑緩和に努力しているものと思われる。筆者が，上記交通機関を利用する時間帯はピーク開始直前であろうが大変なラッシュである。とくに，乗換駅のホームからホームまでの連絡路は，“歩く”でなく強制的に“移動”させられる状態であり，1秒でも1歩でも早く次のホームに着くように，みんなが緊張して歩かされている。

都市交通における朝夕の通勤・通学輸送は首都圏の全交通利用回数のうち2/3にも達し，これが，わずか4時間内に集中しているといわれる。この短時間帯の混雑・ラッシュ解決のために，各交通機関は，大量輸送のための線増・車両増強・運転間隔の短縮などに努力しているとのことであるが，この際お願いしたいことがある。それは，乗換え，出・改札に要する時間の短縮と，人の流れの円滑さを高めるための努力をしてほしいということである。通勤時間に占める待ち時間と乗換えに要する時間などは意外に多く，たとえば，筆者の場合では15～20%にも達していることを知っていただきたい。［S］

3. 新年度の仕事がやっと軌道にのったと思ったら早くも来年度卆業生の採用試験が始まろうとしている。ご多分に洩れず役所も技術者不足は深刻で，給与の良い民間企業と競って，優秀な人材を確保するのは容易なことではない。筆者の所属する県庁でも，この時期に課長，所長らが手分けして全国各地へいわゆる“人買い”の行脚に出かけている。こうした勧誘の効あってか，ともかく翌年の4月には地方から多数就職してくるわけである。その後，こうして採用された“金の卵”は順調に育ってくれているのだろうか。勧誘の際の約束どおり夜間の大学で勉強する機会も保障され，やがて大学卆の肩書とともに結婚を考える年令に達するわけである。問題はこの辺からである。勤めながら学ぶには便利だった地が，家を建てたくとも土地は買えず，物価は高くまことに生活しにくい環境となってしまう。かくして，当節はやりのUターンが始まるのである。やっと仕事も覚え，これからと期待するころには役所間の割愛という形で郷里へ帰ってしまうのである。何のことはない，“金の卵”を集め，官費で技術を身につけさせ，郷里へお返しするだけであるといったらいいすぎであろうか。列島改造論にぎやかなおり，大都市集中のひずみが役所の技術者養成の場にも及んできている事実を知っていただきたいわけである。“人買い”の出発期を前にして，いささか疑問を感ぜずにはいられない。［C］

Vol. 58-4月号から6月号までの本欄の執筆は，下記編集委員が担当しました．
J 稲村　肇　**S** 浅田秋江　**C** 藤井崇弘